

地球惑星科学専攻 地球科学輻合部特別講演会

2009年4月2日（木曜日）16時30分～

京都大学理学部6号館2階202号室

「20世紀オスロ学派の系譜、スバルバル諸島の地質、全球凍結と近年の極域の地球温暖化」

太田 昌秀

ノルウェー極地研究所

講演者紹介：

太田博士は、1962年北海道大学博士課程修了。1969-70年に北海道大学ヒマラヤ学術調査隊副隊長としてネパールの調査を行い、「Geology of the Nepal Himalayas」というヒマラヤ地質のモノグラフを刊行され、同調査グループとともに1973年度秩父宮記念学術賞を受賞されています。

1972年以降は、ノルウェー極地研究所の主席研究員として、北半球の夏は北極、冬は南極と、両極の地質研究を精力的に展開されてきました。また、1980年代以降の日本人地質家によるスバルバル諸島の研究や、同諸島ニーオルスン国際科学村に日本が観測基地を設けるさいに、御尽力下さいました。

太田博士は、常々科学者の視野の狭さを戒められています。ナンセンの大著「フラム号」を翻訳されたのも、そうした思いからと思われる。北極圏は、冷戦時代には軍事的に、現在は地球環境問題や資源開発に、重要な地域です。博士は、1992-99年に日露ノルウェーの北極海航路プロジェクト委員としても貢献され、2006年にノルウェー極地研究所を退職された今もオスロにあって、極域の科学の普及と国際交流に努められています。

今回は博士の研究生生活の集大成の中で、広いスペクトルの話題を提供していただけます。奮ってご参加ください。

問い合わせ先：平島 崇男